

# 第三章 みどりの回廊づくり



## 3-1 地上部への植栽

### 3-1-1 「緑化」の意義

「緑化」は、安らいだ快適性のある空間をつくり、またその成長をとおして人々に今日そして明日の活力を与えてくれます。また、加えて「ヒートアイランド現象」の緩和など、様々な効果をもたらしてくれます。単にヒートアイランド現象の緩和ということになれば、屋上の塗装など他にも様々な方策があります。

しかしながら、人々に様々な「癒し」の場を与え、生物多様性にも寄与できるのはみどりが持つ最も大きな効用です。

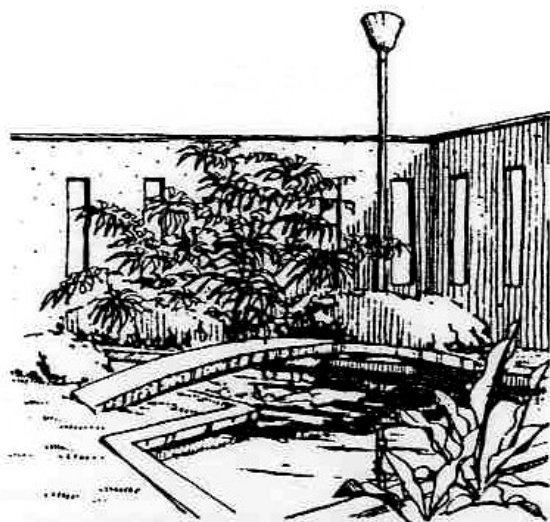
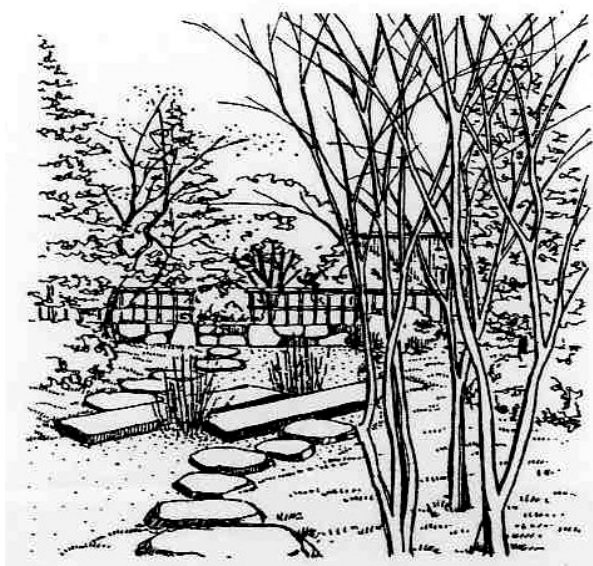
長野県にふさわしい緑化木 70 種については、生物多様性の視点を加え、巻末に樹種ごとの参考事項を整理しました。この 70 種は、緑化木生産者と需要者が同じテーブルにおいて、長野県らしいみどりづくりを進めるために選定したものです。それぞれの地域で、長野県らしい個性を演出する際の参考にしてください。

また、以下に、緑化を行う場合の代表的な施設として、家庭・住宅、公園、道路及び学校について、どんな点に留意して緑化を検討したらいいか概略的に整理しました。他の施設にあっても参考としてください。

### 3-1-2 地上部における「緑化」の留意事項

#### 家庭・戸建住宅のみどりづくりの留意事項

- 1 土壌は、大切な生育基盤  
客土厚を 90 cm 以上とし、排水性、保湿性の良い土壌条件とします。
- 2 庭園の環境条件に適合した適地適木が原則  
日照条件に合わせ、陽樹、陰樹を使い分けます。高木などは生育特性にも留意します。
- 3 庭園は建物側からの鑑賞を主とし、機能面の環境空間を美的にまとめる  
立体感、遠近感、動線などを考え、効果的に配植することがポイントとなります。



生垣を見直そう！

生垣は、身近なみどりの中でも重要な役割を持っています。コンクリートなどの塀と比べると物理的な強さは劣り、維持管理に手間がかかりますが、造成のコストが安く、適切な維持管理を行えば、持続的に、四季の変化に富んだ多様な景観を提供してくれます。また、地震による倒壊の心配がなく、防風や防火など災害を抑止する働きがあるとともに、生物の多様性にも貢献します。生垣は、私たちの生活にとって大切な役割を發揮してくれますので、家庭・戸建住宅のみどりづくりに当たっては、検討してみる必要があります。

生垣に使用する樹種は、一般的には、周年葉をもつ常緑樹が望ましいとされています。

生垣を造成する場合は、建物などの関係で日照不足になる場合がありますので、日陰によく耐える樹種を選ぶことが重要とされています。また、造成後は、刈込みを通常年2回（梅雨季と晩秋）以上行います。さらに、刈り込み等により活力が弱まる場合がありますので、施肥が必要となり、場合によっては、病虫害の防除、支柱立てなども行う必要があります。持続的に良好なみどりをつくるためには、こうした維持管理をあらかじめ承知した上で取り組むことが大切です。



【コウヤマキを使用した生垣】



【ニオイヒバの生垣】



【イチイの生垣】



【アイルランドの生垣】

事 例

長野市 真島 K . A 邸

名 称:個人住宅  
 所 在 地:長野市真島町真島  
 規 模:200㎡  
 管 理 者:K . A氏(家主)  
 みどりの概要

アカマツを主木とした庭園で石組、池泉（現在は川砂の枯山水）及び芝生から成っています。玄関アプローチはレンガ風舗装、外壁はブロック積みでナツツタ、ブラックベリーによる緑化が行われています。ブロック積みの道路側に側溝があり、この間は四季折々の花壇となっており、歩行者の目を楽しませています。



維 持 管 理 の 方 法

1 病虫害対策

春先は害虫の発生が始まる時期です。樹木の状態をよく観察し、害虫の発生傾向が見られた場合は、薬剤の散布が必要です。薬剤は、虫の種類ごとに決まっています。ホームセンターなどでご確認の上、最新の薬剤を適切に使ってください。夏期にもアブラムシ、アメリカシロヒトリなどの防除が必要となります。

2 マツの手入れ、その他

みどり摘み（ ）を行います。また、秋には、昨年古葉と今年発生した葉の一部を軽く手でむしり取る「茎むしり」を行います。この時期には、枯れ枝や混み過ぎている枝をもとから切る作業を併せて行います。

3 芝生の手入れ（コウライシバ）

春～秋に5回芝刈りを行う。施肥は年2回様子を見て行います。

4 草花の管理（宿根草主体）

春～夏、除草及び灌水を行います。

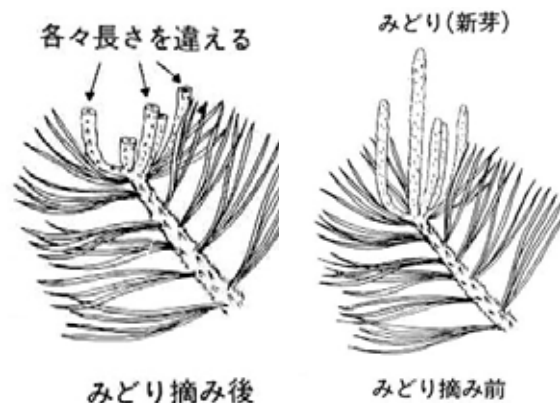


【～コラム～】

「みどり摘み」

マツの新芽は4月中旬～5月上旬に、みどりあざやかな若々しい芽がでてきます。

新芽、すなわち「みどり」を段違いに摘み取り、当年枝の成長を止め、間伸びした枝にならないよう、枝の形を整えることを「みどり摘み」といいます。



## 公園のみどりづくりの留意事項

- 1 みどりの成長力と管理力を見極める  
樹種により生長量に差があり、管理主体やその体制により、設計段階から目標形態を設定し、それにより造成し管理します。
- 2 みどりへの成長を促す生育基盤を整える  
生育基盤が大切なので、当初の土壌条件を樹木に適合させることが重要です。  
また、落葉広葉樹等を利用し、有機質堆肥による土壌改良を継続します。
- 3 住民への理解と協力でみどりをのびのび育てる  
行政と地域住民、近隣住民同士が連携しあい、効率的にみどり豊かな空間を形成するとともに、豊かなみどりを持続させます。

## 事例

## 茅野市 横内北公園

名称:横内北公園  
所在地:茅野市茅野 2579 番地  
規模:2,002 m<sup>2</sup>  
管理者:横内区

## 施設の概要

比較的新しい横内区の住宅地内にあり、周囲に都市計画道路横内線の「親水型憩いとふれあいの空間（ホタルゾーン）」が隣接しています。園内は植栽や芝生面も多く、みどり豊かな公園です。遊戯施設では、公園のシンボルとなっている風の塔（展望台）と、アスレチック遊具のロング吊り橋が設置されています。休憩施設では木造の四阿、ベンチが設置されています。



## 維持管理の手法

- 1 害虫防除  
春先のDMTP乳剤等により、カイガラムシ等の病害虫の発生が相当おさえられます。またサクラ類等の柔らかい葉は、アメリカシロヒトリの発生が年2回あるので、幼齢虫段階で発見し除去を心がけます。
- 2 剪定  
一般に自然形仕立を基本にしているので混合った枝抜程度とします。低木類は経年変化で樹高が伸びるので、3年に1回程度高さを調整します。
- 3 施肥  
芝生（ノシバ）は、年2回の芝生用肥料の施肥と、数回の刈取りを行います。
- 4 清掃  
落葉落枝は根や樹冠下に戻し、樹木生育サイクルに組み込みます。
- 5 愛護会  
公園愛護会等を結成し、維持管理にあたり、コミュニティーの場にするなど地域をあげてみどりを維持管理すると愛着も生まれ、持続的なみどりづくりに貢献します。

## 道路のみどりづくりの留意事項

- 1 適地適木主義の徹底  
街路樹の生育条件は過酷です。また、電線など、生育後に支障となるものもあります。しかしながら、街路樹は、豊かな街並みづくりの主要要素です。長期的な視点で維持管理面も踏まえて樹種の選定を行います。
- 2 生育基盤の充実  
生育基盤すなわち生育土壌の良否は、街路樹の生育に決定的な影響を与えます。したがって、植栽帯の客土時点で樹種の選定及び、より大きな客土体積空間を設置する必要があります。
- 3 剪定技術の向上  
樹木は年々成長し続けます。樹木本来の美しさは自然樹形にあります。しかしながら物理的に制約がある場合には、的確な剪定が必要で、日頃より、技術の維持、向上や街路樹剪定士等の有資格者の育成と活用が必要です。
- 4 倒木診断  
大径木になるに従い、数多くのストレスにより倒木の危険度が増加します。街路樹台帳等を整備し、樹木医による定期的な診断が必要です。
- 5 住民参加  
町内会・商店街型、企業中心型、地域有志型、学校型など様々な形態がありますが、管理区分や行政との良好な関係を保ちつつ、長期的にわたる住民参加が必要です。



松本市役所前のカツラ

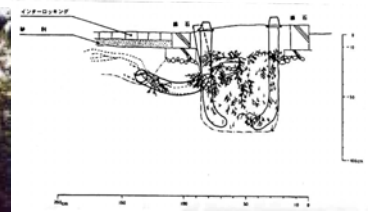
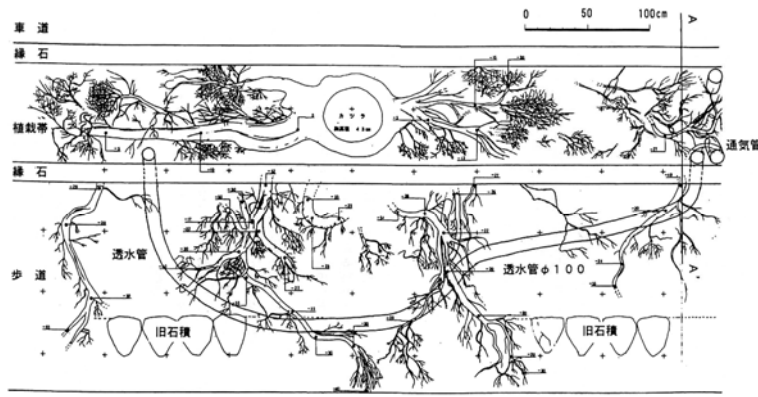
事例

松本市 カツラ並木

名称:市役所前のカツラ並木  
 所在地:松本市1064号  
 形状寸法:樹高12m、目通り周130cm、樹齢約35年  
 管理者:松本市

並木の概要

昭和49年植栽の県内では最も古い街路樹です。基本植栽間隔は7m、植栽帯内幅70cmの連続型を有しています。長期に渡り自然形仕立としていたため、緑量が多くなりすぎ水収支バランスが崩れ夏から秋にかけ、葉の赤変落葉が発生するようになっていきます。また下木としてドウダンツツジが植栽されており、一部では、カツラとドウダンツツジの根系が絡まり、水分の奪い合いが生じています。根系は歩道の下に達しており、歩道舗装を押し上げている所があります。



市道1064号 市役所前

街路樹の活力度診断基準

診断綱目	診断基準				
	0	1	2	3	4
樹勢	旺盛な生育状態を示し、被害が全くみられない	いくぶん被害の影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が劣悪で、回復の見込みがない	ほぼ枯死している
樹形	望ましい樹形を保っている	若干の乱れはあるが、望ましい樹形に近い	望ましい樹形の崩壊がかなり進んでいる	望ましい樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	望ましい樹形が完全に崩壊している

(出典：道路緑化ハンドブック)

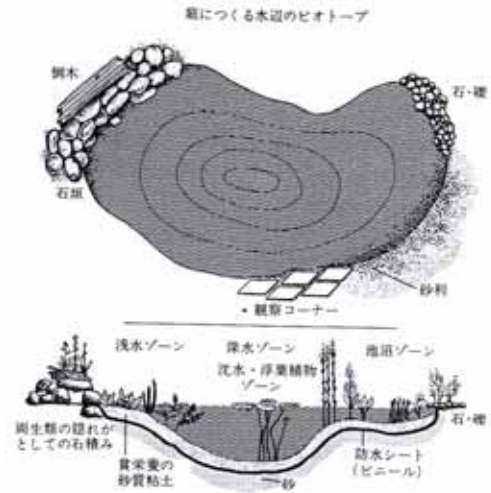
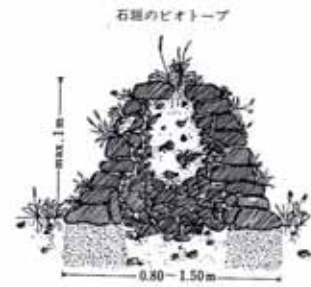
診断基準2に達したら、専門家に相談する必要があります。

学校のみどりづくりの留意事項

1 ビオトープ空間 - 野生生物の生息空間

建物の雨水や用水の流れを引き込み、小さな池を創ることにより、トンボ等水生昆虫の生息空間を創ることができます。

またふるさとの森づくりと一体化することにより蝶や昆虫の誘引、生息させることにより多様な環境教育のメニューを準備することができます。



2 ふるさとの森づくり - 幼苗植栽手法とは

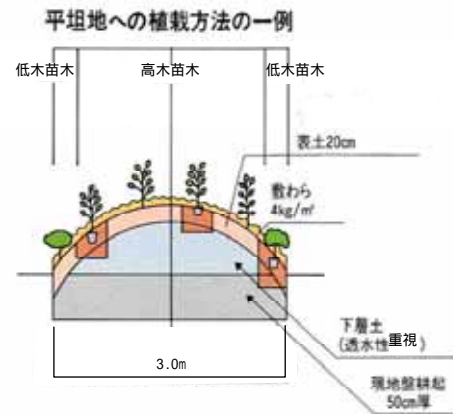
その土地に一番適した木々（潜在自然植生）のポット苗を用いて、管理のいらない自然の森を創造する手法 - それが幼苗植栽手法です。まず、潜在自然植生の種類を選び、土壌を整え、ポット苗を植えます。その後2、3年は草抜きが必要ですが、それ以降は枝葉が重なり合って、光を通さず草が生えにくくなり、落葉が養分となるので管理が不要になります。ふるさとの森が数年で形成され、多様な自然が創り出されるのです。幼苗植栽手法の詳細は、「幼苗植栽手法技術指針(長野市・平成5年3月作成)」に記述されています。

森をつくる最終段階の土壌

自然にまかせられた植生は、何百年にわたって、植物の遷移と呼ばれる木々の種類の移り変わりを経て、やがて安定した最終的な自然林になります。その時土壌は、厚く、豊かな状態になっています。幼苗植栽手法は、植物の遷移の最終段階にあたる木々を植える手法ですから、当然、土も自然林に近い良好な土壌が必要となります。

表土の厚さとその性質

表土は、下に下層土がある場合20cm、岩がある場合30cmの厚さとし、有機物に富み透水性の良いものが良い。表土が入手できない場合は、排水性の良い土に土壌改良（パーク堆肥等を混合）を行うことによって表土のかわりのものをつくります。下層土は透水性の良い土を用います。



須坂園芸高等学校のトチノキ並木



事 例

長野市 三本柳小学校

名 称:三本柳小学校ふるさとの森づくり  
 所 在 地:長野市三本柳東2-1  
 規 模:グラウンド周辺植栽帯約600㎡  
 管 理 者:長野市

植栽の概要(平成5年4月植栽)

学校の南と東面に植栽帯をつくり、ケヤキ、コナラ、クヌギ、エノキ、ミズキ、トチノキ、ヤマブキ、ガマズミ、ムラサキシキブ、ウツギの計1,096本が児童の手によって植栽されました。現在は、大きい樹で樹高8m、目通り周10~15mに生育しています。なかでもケヤキ、クヌギが著しく成長しています。



維持管理の手法

早期緑化の優れた手法として普及していますが、10年20年後の管理手法及び経年変化による生態系の変化調査の研究などが今後の課題となっています。



ふるさとの森の案内板



ケヤキが優先している